

ブルーポピー栽培記録

大賀 二郎

How to get mysterious flower the Blue Poppy.

Jiro OGA

栽培の要点

青いケシ (Blue Poppy) は、ヒマラヤ・カラコルム山系、ミャンマー山岳地帯、中国チベット高原および雲南・四川省の3,500~6,000mの高山帯に局地的に自生する (伊藤 1978)。深いコバルトブルーの花は高山の聖域で灯るように開く。限りないロマンを感じるが、国内の平地で栽培することは、通常、不可能とされていた。

1990年、大阪花の万博で、一般に初めて紹介された。筆者も同種の苗3株を購入し、大切に育てたが、開花に至らず、見事に失敗した。同種は、日本の4月初旬から6月中旬が成長期とみられているが、梅雨の暑さと湿度に耐えられず、ある日、全株一度に塩をかけたように倒れた。

以降、他では冷温室や冷房の効いた日当たりのよい室で開花した話を聞いたが、やはり、一般に栽培は至難だと認識されているようである。

ここ2、3年山草を扱う専門の種苗商で同種の苗を販売するようになったが、扱いが難しく、店頭ですでに弱っているものが多い。筆者も同期間比較的健康的越冬種を求めて栽培してきたが、花芽分化が行なわれる直前に枯死した。やはり、暑さに問題があった。

今回は2月10日、越冬した玉芽一株を求めて鉢植え栽培を始めた。同種の適温は15~22℃で、暑さの限界は25℃あたりのようである。つまりは冷温室でこの温度を保てばよいことになる。しかし、筆者は別の試みをしてみた。若芽のときから成長を早めて、梅雨入り前に開花・結実に持っていった。そのため無加温温室で成長を促進し、3月下旬に花茎の頭が見えてから、温室外に出した。こうして4月中旬には4輪開花し、すべて結実した。7月には茎葉は枯れてるが、涼しい日陰で休眠させている。宿根として残っているかどうかは不明である。なお無加温温室は床にヌカ、カンナクズを敷き詰め発酵させている。一坪の温室で冬季夜間で+3~5℃の上昇になる。

栽培土壌は弱酸性にした。原産地を広域的にみると、石灰質の基盤でアルカリ土壌に思えるが、本種の生育環

境は、山岳斜面の腐蝕土であり、幾分酸性化の可能性がある。従って、用土は赤玉土50%、鹿沼土10%、凍土モス10%、山苔10%、骨粉10%そしてコンポスト10%(肥料分として)の構成とした。水遣りは原産地が湿度の高いところであるので、表土が乾かないよう多めに与えた。鉢の置き場所は日照時間が長く、しかし直射日光でなく、漏れ日のところで、なおかつ風通しを考えた。

栽培のデータはつぎのとおりである。

種 類 *Meconopsis betonicifolia* Franch
栽培地 西宮市甲陽園目神山町 海拔110mの地点
栽培経過 2002年2月10日 苗(玉芽状)入手 (リビングコーポ神戸本店)

- 3月初旬 根生葉が開く
- 4月初旬 花茎分化
- 4月中旬 蕾4輪が見える
- 4月17日 一輪開花
- 5月7日 全花終る
- 5月中旬 結実

その他参考事項

現在栽培されているメコノプシス属の品種は栽培が可能のように改良されたものとみられる。更に日本の高温多湿の風土に幾分適応したとも思われる (最上 1997)。

栽培は冷涼な環境設定が必須条件であるが、成長を早めて入梅前に開花結実に持つてくるのも、ひとつの方法である。自分で播種から栽培を始めると、その環境に馴染み、また根を傷めなくてすむ。次回からその実験を始めてみたい。

今回栽培した種の花色は、濃紺ではなく、幾分青みのある白色となった。原産地のように紫外線が強くなかったからか、用土の酸性度が弱かったか、或いは品種がこの色に固定されていたのか、よくわからない。

なお、青いケシと呼ばれるメコノプシス属は、ケシ科であるが、麻薬取締法の規制種でない。

[青いケシの種類] 因みに青いケシ (*Meconopsis*) は主につぎのものが知られている (伊藤 1998)。

(学名、自生地、高度m、草丈cm、花色)

M. aculeata Royle カシミール、3300~4500、30~90、

薄青.

M. betonicifolia Franch 東チベット雲南4000～5000, 100,
紺.

M. horridula Hook ネパール ミャンマー3000～6000 ,
10～100, 赤紫.

M. integrifolia Franch チベット 3500～5000, 25～90,
黄.

引用文献

伊藤道人. 1978. 世界の植物 (生態). 朝日新聞社.

最上友行. 1997. ヒマラヤ聖域に咲く青いケシ. 枳の葉
書房.



写真1 2002.3.5

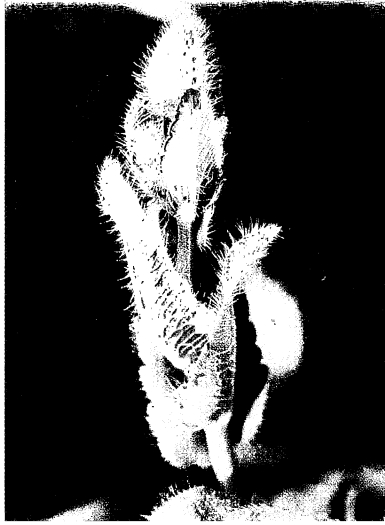


写真2 2002.4.3



写真3 2002.4.15



写真4 2002.4.19



写真5 2002.4.28



写真6 2002.5.5



写真7
*M. betonicifolia*の野生状態
1998.8.11 チベット ツルプ寺
グル川溪谷斜面 海拔4,200m地点で筆者
撮影